

沼田南中学校保護者 様

沼田市立沼田南中学校
校長 根岸 浩文

令和4年度学校評価アンケート結果について

日頃より本校の教育活動の推進にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。
さて、7月・12月に実施いたしました、学校評価アンケートの集計結果について、全教職員でチーム分析及び改善策を検討しました。今後もこの結果を教育活動に生かしていきたいと考えております。
各ご家庭におかれましても、アンケート結果に基づき、お子様へのご指導・お声がけをいただけますようお願い申し上げます。

* 学校評価達成度基準：A 十分理解・達成されている 90%以上 B 概ね理解・達成されている 80%以上 C 理解・達成が不十分である 60%以上 D 理解・達成されていない 60%未満
* 原則としてアンケートの a：十分、b＝概ねの合計が 90%以上であっても a > b の場合のみ「A」評価とします。a + b が 90%以上でも a < b の場合は「B」とします。

学校経営評価			方策		自己評価		改善策
評価項目		目標値			①	②	
Ⅰ 保護者等との連携	1 学校からの連絡や各諸行事への参加などによって、学校や子どもの様子がわかりますか。	①学校や生徒の成長の様子が分かる と答える保護者が 90%以上である。	○学校や生徒の活動の様子の情報提供を各種通信や Web ページ、H & S によるメール配信などを工夫して計画的・継続的に行い、保護者への情報提供の一層の充実を図る。		A	A	○各種通信の一層の充実 ○H&S の活用
	2 学校の行事や PTA の行事には参加しますか。	②学校や PTA の諸活動に年 2 回以上参加していると答える保護者が 90%以上である。	○PTA の諸活動の精選と内容の充実、日程の工夫を行い、保護者に早めに通知することにより、参加への意欲を高めるとともに、積極的な参加を促す。 ○学校行事や PTA 諸活動の案内を通知及び各種通信、H & S や保護者会等で意義等を含め、分かりやすく周知する。 ○PTA 役員による自発的な活動を促し、保護者相互の連携・協働による活動を充実させる。		B	B	○各種通信の一層の充実と早期発送 ○Web ページ・H&S の活用
	3 学校の経営方針や指導の重点は分かりやすいですか。	③学校の方針や重点を理解していると答える保護者が 90%以上である。	○PTA 総会や学校公開日、学年保護者会、学校だより等各種通信、H & S によるメール配信などを工夫して機会ある毎に学校の方針や重点・現状等について説明し、学校と家庭とが共通の認識に基づいて生徒の支援にあたるよう協力を求めていく。		B	B	○PTA 総会、実行委員会での周知 ○学年保護者会で説明・周知
	4 学校はお子さんに関することで相談がしやすいですか。	④学校は相談しやすいと答える保護者が 90%以上である。	○授業参観・保護者会・家庭訪問・三者面談・教育相談週間等、様々な相談機会の充実を図る。 ○生活ノート、悩みアンケートなどによる多面的な生徒理解に努め、保護者や生徒の立場に立った共感的な理解ときめ細かな対応、指導・支援に努める。		A	B	○多面的な生徒理解ときめ細かな対応の継続実践 ○相談機会の充実と保護者への周知
Ⅱ 確かな学力	5 生徒は、授業が分かり、満足感や達成感を味わっていますか。	⑤授業が分かると答える生徒が 80%以上である。	○基礎・基本の確実な定着を目指し、習熟度に応じた指導の充実を図るとともに、職員の授業力の向上を図り、生徒の「主体的・対話的な深い学び」のある授業を実施するとともに子に応じた支援の継続に努める。		A	A	○授業改善に向けた、職員一人一人の授業力の向上
		⑥授業に達成感、満足感を感じていると答える生徒 80%以上である。	○授業の補充として、放課後学習にて個別に支援・指導を行うとともに、数学・英語の補充学習に力を入れ、少しずつ基礎・基本を定着させるための指導を行う。 ○放課後学習に使用する教材については、個々の理解に応じて、タブレット端末を利用するなど、実態にあった教材を用いるなど、個に応じた支援を充実させ、授業において達成感や充実感を感じることができるようにする。		B	A	○放課後学習の充実 ○個に応じた支援の充実 ○タブレット端末の有効活用による個別最適な学びの充実
		⑦家庭学習を 1 時間以上行っている生徒が 80%以上である。	○各学年教職員の協力体制のもとに自主学習ノートを個に応じた支援に繋げる。また、放課後学習を継続するとともに、家庭との連携の強化と学びのサイクルの定着を図り、生徒の主体的な学びへの意識を高める。		A	A	○授業・放課後学習・家庭学習のサイクルの確立 ○個に応じた指導の充実
	6 生徒の学力や努力を適切に評価し、その結果を指導に生かしていますか。	⑧努力した事を先生にほめられるなどやる気が出たと答える生徒が 80%以上である。	○教育相談の充実を図るとともに、授業における「めあて」の提示と「振り返り」の充実、「何を学んだか」「何が分かったか（できるようになったか）」「次に何を学びたいか」生徒の学びを多面的に捉え、賞賛・励ましを行い、生徒の意欲を高める。		A	A	○教育相談日の充実、チャンス相談の実施 ○個々への賞賛や励ましの指導の実施
	7 家庭で自主的に学習や読書をする習慣が生徒に身に付いていますか。	⑨学校や家庭での学習に進んで取り組んでいると答える生徒が 80%以上である。 ⑩朝読書や家庭での読書に進んで取り組んでいる、生徒が 80%以上である。	○ねらいの明確化と振り返りの確実な実施、問題解決的な学習と学び合いを通して、生徒が活躍できる場を工夫して設定し、達成感や満足感、自己有用感を高める授業を実践するとともに、放課後学習、補充学習の充実を図る。 ○「朝の読書活動」の継続と充実を図り、読書の楽しさに気付かせ、読書習慣を身に付けさせる。また、図書委員を中心とした生徒主体の読書活動推進の取組を促す。		A	A	○放課後学習、補充学習の充実 ○自主勉強ノートの指導と充実
					B	B	○図書委員会等、生徒主体の活動の充実○家庭読書の促進

Ⅲ 豊かな心	8 進んであいさつができますか。	⑩進んであいさつできる生徒が 90%以上である。	○生徒主体のあいさつ運動の継続実践、いじめ防止や人権学習との関連を重視したあいさつ運動の一層の充実を図る。教職員から声をかける指導を継続し、範を示す。	A	A	○生徒会本部・専門委員会による生徒主体の取組の一層の充実 ○人権学習といじめ防止の関連重視
	9 時と場に応じた言動ができていますか。	⑫時や場・相手に応じた言葉遣いができる生徒が 90%以上である。	○各学年職員による道徳研修の充実とローテーション道徳による授業改善により、考え議論する道徳の実践と全教育活動を通じた道徳教育の推進、実践につながる指導・支援の充実を図る。	A	A	○道徳・特別活動による心を育てる指導の実践
	10 いじめはしない、させない、許さないという意識を持っていますか。	⑬いじめはしない、させない、許さないという意識と態度を持っている生徒が 100%である。	○愛の学園プロジェクトの充実、生徒主体のいじめ防止活動を強化し、生徒の心に寄り添う積極的な生徒指導・支援、組織的な取組を充実させる。 ○家庭との連携によるいじめの未然防止と積極的な認知、早期発見・早期解決を徹底し、いじめの根絶を目指す。	A	A	○愛の学園プロジェクトによる生徒主体のいじめ防止活動の継続実践 ○道徳科の授業の充実
	11 相手の立場や気持ちを考えた親切的な言動を心がけていますか。	⑭相手の立場や気持ちを考えた親切的な言動がとれる生徒が 90%以上である。	○人権学習、人権週間の充実、全教育活動を通じた道徳教育・人権教育の推進を図る。 ○「考え・議論する」道徳の充実を図り、人権尊重の精神や思いやりの心、命を大切にすることを育む指導・支援に努める。	A	A	○道徳・特別活動による心を育てる指導の実践 ○生徒会本部による生徒主体のあいさつ運動の取組一層の充実
	12 学校のきまりや約束を守って生活する生徒が育っていますか。	⑮学校でのきまりや約束を守って学校生活を送っている生徒が 90%以上である。	○教師による厳しさや優しさのある指導・支援、学校と生徒・家庭との信頼関係の構築を図る。 ○家庭との共通理解・共通実践、道徳・特別活動による自主・自立、規律に関わる指導により、生徒の規範意識を一層高める。	A	A	○道徳・特別活動による自主・自立、規律に関わる実践
	13 家庭で手伝いをしていますか。	⑯家庭で、食器片付け、玄関を掃く、風呂掃除などの手伝いをしている生徒が 90%以上である。	○家庭科、道徳・学活等の学習を通して、家族の絆を深め家族の一員としての主体的な実践を促す。 ○生徒・保護者への働きかけ、係活動への取組指導による勤労意識の高揚を図る。	A	A	○生徒・保護者への働きかけ、係活動への取組指導 ○家庭との連携・協力による実践化への働きかけ
Ⅳ 健康・体力	14 生徒は毎日朝食を摂って登校していますか。	⑰朝食を毎日摂っている生徒が 90%以上である。	○保健体育及び家庭科の授業や完食習慣の実施、また、食育指導を通して、食に対する意識を高める。朝食や夕食について、家庭への啓発により、食生活の改善と自律的な生活習慣の確立など、自己健康管理能力を身につけさせる。	A	A	○給食委員会による完食習慣の実施による啓発 ○保健体育・家庭科における食生活に関わる指導の充実
	15 生徒は十分な睡眠を取って生活していますか。	⑱ 1 日 6 ～ 9 時間の睡眠時間をとっている生徒が 90%以上である。	○生徒が主体的に食事・運動・学習・休養（睡眠）のバランスのとれた生活習慣の見直しと改善が図れるよう、教科や学活等に啓発を行う。	B	B	○生徒主体の保健委員会、学校保健委員会による啓発 ○学活や保健体育・家庭科による指導充実、ほけんだより等による啓発
	16 健康で体力のある身体をつくろうとする生徒が育っていますか。	⑲進んで運動や部活動に取り組んでいる生徒が 90%以上である。	○新体力テストの結果を踏まえた保健体育の授業の工夫・改善、行事や「教育部活」の充実を図り、進んでスポーツに親しむ意欲や態度を育てる。	A	B	○体力向上プランの取組強化 ○教育部活の実践
	17 コロナの感染予防対策をしっかりとっていますか。	⑳コロナの感染予防対策をとっている生徒が 90%以上である。	○コロナに対する情報の共有と市教委に基づいた的確な対応を行い、生徒への感染予防と健康観察を徹底し、組織的な対応を図る。	B	A	○毎日の健康観察の徹底 ○感染予防対策の徹底 ○集会・保健だより等による啓発
Ⅴ 安保・施設設備	18 交通ルール等を守るなどの危機回避能力を身につけていますか。	㉑交通ルール等を守っている生徒が 90%以上である。	○登下校時の通学路の歩き方について、安全に登校できるよう継続的に指導する。また、地域の方にも迷惑をかけないよう、全校体制でパトロールを実施する。	A	A	○安全教育の充実 ○登下校時のパトロール実施 ○安全マップの再点検
	19 学校の施設設備の安全管理や危機管理を徹底していますか。	㉒学校は定期的に学校の施設設備の点検修理を行っている。	○職員による定期的な安全点検の確実な実施と問題点への迅速な対応により、学校内での事故の未然防止を徹底するとともに、委員会活動、学級活動における生徒主体の安全環境整備に関わる活動の充実を図る。	A	A	○安全点検の確実な実施と問題点への迅速な対応
	20 交通事故防止、火災・地震・不審者対策など、安全教育の徹底を図っていますか。	㉓学校は安全(危機)管理マニュアルを確認して、シミュレーションを年 2 回以上実施している。	○年 3 回（地震・火災・不審者対応）の避難訓練を実施と PDCA サイクルによる改善により、生徒の危機管理への興味・関心を高め、危機回避能力を育む指導を計画的に実施する。 ○災害時引き渡し訓練を実施し学校・家庭・地域が一体となって生徒の安全・命を守る意識を高め、万一来る。	A	A	○年 3 回の避難訓練の充実と PDCA サイクルによる改善 ○他機関との連携強化、危機管理マニュアルの改善充実
Ⅵ 進路・生き方	21 生徒が自らの将来について考える進路学習や啓発的な体験活動を計画に沿って実施していますか。	㉔普段のテストの反省や学級活動での進路学習、職場体験などの体験活動が自己の進路や生き方について考えるきっかけとなっている生徒が 90%以上である。	○キャリア教育全体計画をもとに目的を明確にした実践的・体験的な活動を行うとともに家庭との連携を密にし進路指導・支援を一層充実する。 ○タブレット端末を効果的に使い、オンラインでの職業講話等も検討する。 ○キャリアパスポートの継続的な活用を行い、生徒自身が自己の成長を振り返るとともに、親子で話し合い、生き方を模索できるよう、各学年に応じた指導・支援の充実、保護者との緊密な連携を図る。	A	A	○進路学習や体験活動を含めたキャリア教育の充実 ○キャリアパスポートの有効活用と家庭との連携・協力の充実
	22 生徒の夢や将来を育める進路指導を行っていますか。	㉕将来の夢や希望する進路について親子でこれまでに 2 回以上話し合っている家庭が 90%以上である。	○学年保護者会や通信等により進路に関する情報提供を計画的に行い、生徒と保護者の進路意識の高揚に努める。 ○キャリア教育全体計画の改善充実とキャリアパスポートの有効活用により、キャリア教育の視点を活かした教育活動の一層の充実を図る。	B	B	○キャリア教育の充実と三者面接等での情報提供と共有 ○キャリアパスポートを活用した家庭との連携・協力の充実